瀬田の丘

創刊 1973 年
編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

今日のみことば
王であるキリスト　B 年（2024 年 11 月 24 日）

瀬田教会主任司祭　小西広志神父

第一朗読：ダニエル書　7 章 13 ― 14 節
第二朗読：黙示録　1 章 5 ― 8 節
福音朗読：ヨハネによる福音書　18 章 33b ― 37 節

第一朗読の「人の子」は注目すべき表現です。旧約聖書では「人の子」には三つの意味があります。

一つは神さまとは違った存在としての人間を表します。「神は人でないから、偽ることはない。＜人の子＞でないから、悔いることはない」と聖書にあります。（民 23 章 19 節）。ですから、神さまは「人の子」を顧みられる方なのです（詩 8 編 5 節参照）。

第二に、預言者エゼキエルに対して神さまが呼びかけるときに「人の子」と呼びかけます（エゼ 33 章 7 節など参照）。

第三に、今日の朗読箇所の『ダニエル書』にあるように、帝国の支配を終わらせるために神さまが送ってくださる者を「人の子のような者」と記しています（ダニ 7 章 13 節）。

第二朗読、7 節の「雲」について少し説明しましょう。聖書では雲にいくつかの意味を与えています。

第一に、自然現象としての雲の意味です。

第二に、洗礼の前ぶれとしての仕手の雲です。

『コリントの信徒への第一の手紙』に次のようにあります。

1 兄弟たち、次のことはぜひ知っておいてほしい。わたしたちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、2 皆、雲の中、海の中で、モーセに属するものとなる洗礼を授けられ、3 皆、同じ霊的な食物を食べ、4 皆が同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た霊的な岩からでしたが、この岩こそキリストだったのです。（10 章 1 ― 4 節）

第三に、雲は神の顕れを示します。例えば、イエスさまの変容の場面で雲からの声が聞こえました。これは神さまの声です。そして、イエスさまは雲に覆われて天に上げられました。また、イエ

スさまは雲に乗って来られる方です。『マルコによる福音書』には次のように記されています。

60 そこで、大祭司は立ち上がり、真ん中に進み出て、イエスに尋ねた。「何も答えないのか、この者たちがお前に不利な証言をしているが、どうなのか。」61 しかし、イエスは黙り続け何もお答えにならなかった。そこで、重ねて大祭司は尋ね、「お前はほむべき方の子、メシアなのか」と言った。 62 イエスは言われた。「そうです。
あなたたちは、人の子が全能の神の右に座り、
天の雲に囲まれて来るのを見る。」（14 章 60 － 62 節）

今日の朗読箇所にある「雲に乗って」は直訳すると「雲と共に」となりますから、乗り物としての雲ではなく、神の現れのしるしとしての雲です。終わりの日にキリストは神さまと共に来られるのです。

今日は、福音朗読の本文ではなく、今日のミサでの「叙唱」に耳をすましてください。

キリストを王としていただく国では、イエスさまの生きた姿が手本となります。「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい」（ヨハ 15 章 12、17 節）と仰せになったイエスさまは、「わたしはあなたがたに手本を示しているのだ」（13 章 15 節）ともおっしゃいます。イエスさま自身が、わたしたちが生きる生き方の模範となるのです。

イエスさまは専制君主のように人々を支配するために来たのではありません。「仕えるために、また多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た」（マコ 10 章 45 節）のです。そして、イエスさまはわたしたちが愛の戒めを守ることができるように聖霊を約束し、聖霊を与えてくださいます（ロマ 5 章 5 節、8 章 2 － 10 節参照）。

このように、イエスさまは王として人々のこころを支配します。そしてイエスさまに従って生きる「新しい人々」によって、世界と社会が「真理と生命の国、聖性と恩恵の国、正義と愛と平和の国」（今日の叙唱より）へと変わるようにと、王であるイエスさまは今日も働き続かれるのです。

「王であるキリストの祭日」は 1925 年に教皇ピオ 11 世によって制定されました。最初の公会議であるニケア公会議開催 1600 年を記念してのことです。当初は諸聖人の祭日の直前の日曜日、すなわち 10 月の最終日曜日に祝われていました。当時は第一次世界大戦後の混乱のなかで、無神論や独裁体制が台頭していました。キリストこそが人類世界を治める最高の王であることが示されたのです。1969 年の典礼暦の改革で、年間の最終主日に祝われるようになりました。それは終末における完成と、キリストの再臨への希望と待望とを関連づけてのことでした。

今週で 2024 年の典礼暦年も終わります。再び王として来られるイエスさまの再臨を待ち望みながら、あのベトレヘムで生まれた救い主の最初の来臨を記念する待降節が来週から始まります。「待ち望む」こと、これこそがキリスト教の霊性の中心点です。